



# 岩淵小 学校だより



令和5年6月3日

6月号

北区立岩淵小学校

校長 荒木克之

## 「ふれあい 伝え合い なかよく」

校長 荒木克之

初夏に入り、徐々に日差しが強くなり、気温の高い日も多くなってきました。校庭では、緑のカーテンになっていくヘチマが、深い緑の葉を広げながら、元気よくツルを伸ばしています。

さて、5月14日～16日に、5年生の岩井自然体験教室に行って参りました。3日間、大きな天候の崩れもなく、大房岬でのウォークラリーや自然体験、砂山でのそり滑り、鴨川シーワールドでの見学など、数々の活動を楽しむことができました。

岩井自然体験教室での子供たちは、基本的に班での活動となります。なので、班のメンバーでそろって行動しなくてははいけません。でも、子どもたちは、それぞれ行きたい場所もやりたい事もあるので、話し合いながら解決していく必要があります。

1日目、大房岬のウォークラリーの後、ある班のリーダーの子から「班のメンバーが勝手に動いちゃうから、困っています。もう、なんとかしてください！」と言われました。メンバーを確認すると、ちょっと大変そう（笑）。でも、そのときは笑って「頑張ってください！」と励ますだけにしました。

そして、3日目の鴨川シーワールドでの班活動の時、もう一回そのリーダーの子に様子を聞いてみると「まだ大変なんだけど、前より聞いてもらえるようになったかな。」と、苦笑いしながら答えてくれました。私も一緒に笑って、頑張ってくれたことの感謝を伝えました。

岩級にはいろいろなタイプの子どもたちが居ます。その中で、さまざまな関わりが生まれます。自分とは違う考えを持っている子がいたときに、どのように折り合いを付けるのか。自分の考えを伝えるときに、どのような話し方で伝えればよいのか。友達と一緒に活動することは、今後子どもたちが社会に出たときに、いろいろなタイプの人たちとどのように協力していくかを考える、貴重な体験だと言えます。今回の自然体験教室では、子どもたちの活動の様子から、さまざまな関わりが生まれ、そこからの成長を嬉しく思いました。

岩淵小の合言葉の一つに「ふ」「ふれあい 伝え合い なかよく」という言葉があります。日々の教育活動の中で、子どもたちも教職員も、たくさんふれあい、伝え合う中で、協力する心を育てていきます。ご家庭でも、お子さんが友達との関係で上手くいかない場面があっても、自分たちで解決できる力を養っていけるように、気持ちを受け止めつつ、温かく見守っていただけるとありがたいです。